第20回 南国市展

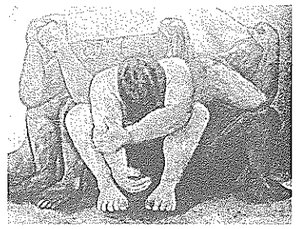
11月23日（日）から8日間の日程で、市民体育館で開かれた『第20回南国市美術展』――

今年の一般の部は、写真、洋画などでの参加が大幅に伸び、搬入作品数は、昨年を約100点上回る339点。

審査は、筒井広道（洋画）、小松豊栄（日本画）、平山昌幸（漫画）、松岡雲峰（書道）、井戸碩夫（彫塑・工芸）、仲隆三（商業美術）、田口吉明・高芝晴喜（写真）の各部門の審査員によって行われ、特選10点、褒状13点、奨励賞6点、入選190点が選ばれました。

また、幼児・児童・生徒の部は、搬入された14,283点のなかから、特選247点、入選2,497点が選ばれました。

洋画　勝賀瀬信澄『ピエロ』



洋画　池知　隆『耐える(一)』

◇…洋　画…◇

■特選
勝賀瀬信澄（高知市）『ピエロ』
池知隆（大埇）『耐える(一)』

■褒状
宮崎寿子（高知市）『鏡と私』
松村哲夫（大埇）『団地の喫茶』
唐岩秀（八京）『旅paper』

■奨励賞
中谷陽子（高知市）『室内II』

■無鑑査
田島智哲（大埇）『土佐国分寺』
島村義一（片山）『石灰工場』
故・山崎次（大埇）『ミモザの花』
細川義彰（上野田）『埴輪』　橋詰正利（植田）『風景』

《評》

二十回の市展を迎えた今年は、作品の傾向としては、これまでと比べて特に変った点はみられないが、出品点数が大幅に増え、新しい顔ぶれもあるようで活気がある。これは当地の人々が互いに励まし合って制作していることを示していて、今後が楽しめる。なお、壁面の都合で落選となった作品があったのは気の毒であるが致しかたない。

作品のなかには、まだ油絵に慣れてない人もあるが、上手に描こうと心がけるよりも、自分の感じたことを素直に描いていくことをすすめたい。なお、その際、絵具の持つ性質や造形要素である形や色については考慮して欲しいものである。（筒井広道）

◇…日本画…◇

■特選
吉永三重（高知市）『姉弟（きょうだい）』

■褒状
野口須磨子（下野田）『むくげ』

■奨励賞
大谷美恵（大埇）『牡丹』

■無鑑査
伊尾木正太郎（祈年）『薫風』
橋詰正利（植田）『夕刻』

日本画　吉永三重『姉弟』

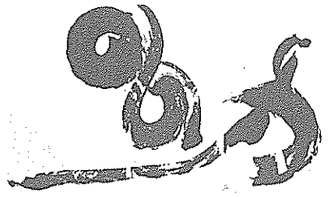
《評》

一応全作品を見せていただいて、特に感じたことは、全体に皆部分的にはよく描写されているけれども、全体のまとめ方を今一つよく考えていただきたい。写生をより一層によくされて、特に書かんとするものの感情をよくとらえることに心がけ、ムードのいい作品に仕上がるよう勉強していただきたい。それには、もう少し作品の中に中心たるものがほしいように感じます。（小松豊栄）

◇…書　道…◇

■特選
小川咲華（上野田）『牧水のうた』
毛利悠映（大埇）『幼』

書道　小川咲華『牧水のうた』



書道　毛利悠映『幼』

■褒状
森本英（久礼田）『我忘吾』
山岡苔巌（里改田）『春暁』

■奨励賞
橋田彩月（東崎）『秋』

■無鑑査
川内悠漾（大埇）『花無心』
弘末咲翠（里改田）『万葉集』

《評》

出品数激増。意欲的な仕事が多く、作品はある程度バラエティーに富み、目を楽しませてくれた。指導者に恵まれた土地柄だけに、さらに今後が楽しみである。（松岡雲峰）

商業美術　宮崎寿子『農業案内（野市貸畑）』

◇…商業美術…◇

■特選
宮崎寿子（高知市）『農業案内（野市貸畑）』

■褒状
小松昭夫（野市町）『個展ポスター』

《評》

全般的にはアニメ等の模写が多い。個人として楽しむのは自由であるが、デザイン作品として発表するのは不適当である。第一に創造性を重んじ、第二に技術的に一定の水準に達するよう、第三にレタリングにもっと神経を使うこと、以上三点に留意して製作してもらいたい。（仲　隆三）

■無鑑査
沢本英世（里改田）『産地直送』
『危うし平和憲法』

《評》

相変らず出品数が少ない。しかも、今年は昨年の半数に満たぬという淋しさである。

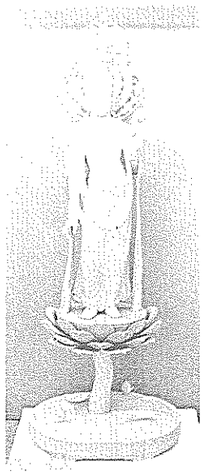
各地に美術展覧会はあるが、漫画の部が存在するのは南国市展だけだというのに本当に淋しい。

漫画の源流である風刺精神の満ちた一駒漫画の影がうすれ、世はあげて劇画やアニメーションの時代だからであろうか、これでは漫画王国、土佐が泣くというものである。（平山昌幸）

◇…漫画…◇

■褒状
北村文夫（土佐山田町）『80年代、川は死んだ』

■奨励賞
葛目義人（岡豊町笠ノ川）『空港拡張迄のジャンボ機』



彫塑・工芸
吉本政之『聖観音』

◇…彫塑・工芸…◇

■特選
吉本政之（東崎）『聖観音』

■褒状
藤田威佳志（大埇）『座』

■奨励賞
乾千賀子（野市町）『重箱』

《評》

工芸は、その人の生活の中で、こんなものを作ってみたい――という気持ちが出発点となる。出来上がったら、格式張らずに気軽に出品してみるという気持ちが大切。今年の出品をみると、地方にしては広い分野でバラエティーに富んだ出品がみられてたのしかった。まだ自分ならこんなものも出来る、というものがいくらでもある。絵画、彫刻などと違って、もっと大衆的な中から生まれた造形物の世界が工芸である。日頃の生活の中から、もっと制作への意欲をもってほしい。（井戸碩夫）

◇…写　真…◇

■特選
西内儀克（下野田）『秋葉の油売り』
谷合隆洋（立田）『三宝山暮色』
友永喬（稲生）『トランポリン』

■褒状
岡本寺行（大埇）『出番前』
木戸誠吉（朝見）『冬白』　中迫秀雄（高知市）『白鳥』　市川芳弘（岡豊町江村）『白サギ』

■奨励賞
西内良子（下野田）『感激の母』

■無鑑査
山本清志（物部）『高原の女』
水田貴士（岡豊町小篭）『ボートレート』
土居正道（立田）『竹』
竹内律一（里改田）『踊り子』

《評》

今年の応募作品は百三十九点で昨年よりはるかに多く、作品内容も非常にレベルの向上しているのが目立った点、嬉しいことである。

一部の作品を除いては、構成、仕上げともに良く、調和のとれた優れた作品が目にとまった。上位作品は優れた作品で、努力のあとが見うけられた。総合的に見ていえることは、カラー、モノクロともにマンネリズムにおちいりやすく、画面の中に力強く躍動する感情の流れを時間に盛込方の少くないことである。作品の上下の差は大きく、今一歩前進、研究してほしいものである。そうして独創性のある作品を作ることに努力してほしいものである。（田口吉明・高芝晴喜）

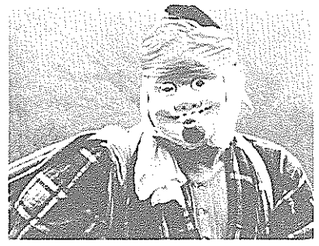


写真　西内儀克『秋葉の油売り』

写真　友永　喬『トランポリン』

写真　谷合隆洋『三宝山暮色』